

若い芽

令和8年1月号

2026年(令和8年)1月19日発行

3学期始業式によせて

校長 後藤 大輔

生徒の皆さん、保護者の皆様、あけましておめでとうございます。新しい1年が始まりました。この冬休みは有意義に過ごすことができたでしょうか。今日は一年のはじめにあたり、生徒の皆さんへの期待や願いをお話しします。

3学期は進級や卒業を控えて、今の学年の締めくくりをする必要があると同時に、次の学校や学年に向けて準備をする期間でもあります。しかし、この4月から自分がどんな環境で学校生活を送ることになるのか不安に感じてしまい、何かとイライラして気持ちが落ち着かず、時には家族や友達に対して傷つくような言葉を言ってしまうことがあるものです。

シンガーソングライターの中島みゆきさんは小学生の頃、友達に言ってはいけないことを口走ってしまったことで、父親から「言葉で切った傷につける薬はない。だから人に傷つける言葉を言ってはいけない」と叱られたことがあるそうです。その際、中島さんは「切ってしまう言葉があるのなら、治す言葉があるのではないか」と思ったそうで、この時のエピソードが音楽活動の原点の一つにもなっていると聞いたことがあります。

中島さんの「糸」という曲の一節にも「縦の糸はあなた 横の糸は私 織りなす布はいつか誰かを 暖めうるかもしれない」とあり、「人と人とで織られた布のような運命や繋がりが、他の人にも希望や温かさを届けることになるかもしれない。そうなったら素敵だね。」という意味が込められていると思います。

「言葉」は発する人の心が映し出されるのと同時に、受け止める人の心に大きな影響を与えてしまうこともあります。不安やイライラした気持ちが「言葉」に移り移って、家族や友達に嫌な思いをさせたり、悲しませたりしてしまうこともあるかもしれません。

一方で、嫌な思いをさせてしまった時に心から「ごめんなさい」と「言葉」にして伝えることができたり、「ありがとう」「がんばったね」「よかったよ」と感謝の気持ちや相手を認める「言葉」を伝えたりすることで、また頑張ろうという意欲につながるものです。辛く悲しい思いをしている人たちに対しても何か勇気づける「言葉」を見つけられる人になってほしいと思います。この栄町中学校で運命的に出会い繋がった私たちが、

いつか誰かを暖めうるかもしれないという可能性を信じて、これからの学校生活を送ってください。

3学期は1年のまとめの時期で、学習も生活も、そして人間性もまとめていく学期となります。皆さんには、「言葉」が人に与える影響を理解し、人と人との繋がりを大切にする深い人間性を備えた人になってほしい、必ずなれると信じています。

最後に、保護者の皆様、旧年中は大変お世話になりました。今年度の終了まで2か月半ほどとなりましたが、午年にちなみ、例年以上に馬力を上げて年度末まで駆け抜けていきたいと考えております。引き続き本校の教育活動への御理解と御協力をどうぞよろしくお願いいたします。



始業式 生徒代表の言葉

<1年生>

僕は今年2年生になるにあたって、やりたいことや頑張りたいことがいくつかあります。まず一つ目は苦手な教科を深く学習することです。僕は国語が苦手です。特に文章問題が苦手なので、本をよく読んだり、新聞を読んだりして文章を読み取る力を付けたいです。もちろん国語だけでなく、他の教科もしっかり勉強していこうと思います。二つ目は様々な事に挑戦することです。例えばウインタースポーツのスケートやスノーボードをしてみたいです。他にも日本や他の国の地域の文化も体験したいので、そういった施設などがあったら行ってみたいと思います。三つ目は個人的なものです。去年英検三級に合格したので、今年は準二級に挑戦するつもりです。他にも、僕は料理をするのが好きなのですが、今はまだ作れるものが少ないので、作れる料理のレパートリーを増やしたいです。

最後に、1年生で身に付けた技術や知識を2年生の生活に活かして、楽しく充実した学校生活を送りたいと思います。

諸活動表彰

第51回北海道教育美術展

・奨励賞 3年生